

在ペナン日本国総領事館の町田です。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

8月が終わりました。個人的には8月の過ぎようはとても速かったですが、同時に中身が多かったです。日本が夏休みになり、学生の皆さんの当地来訪が多かったからかもしれません。ペナンは大変安全なところですが、日本より犯罪率が高いことは確かですので、「家に帰るまでが遠足」の気持ちで有意義な旅を楽しんでいただきたいものです。

ペナン州の政治については、2018年のペナン州政府の与党連合入りで連邦・州のねじれが解消されましたが、チョウ・コン・ヨウ首席大臣の第2期の任期が終わりに近づく時期になって連邦政府の支援を得て多くの大型公共事業が本格化しました。ペナン州としては、これに加えてより多くの連邦交付金を得ることを目指しています。これは他の州も同様ですが、一旦得た権限を手放すことには誰でも抵抗があるものですので、更に長い議論が必要になるかもしれません。8月に参加した行事、行なった意見交換でもこのようなことを再認識しました。

今後とも、我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかりと働いていきたいと思っています。

以下、令和7年（2025年）8月の総領事（館）の主な活動報告をいたします。

ペナン外への出張等については、

8月1日、ケダ州スンガイ・ペタニの日本企業にお邪魔しました。日本企業の皆様からはいつも詳しいお話を伺うことができ、誠にありがとうございます。

8月15日及び16日、週末にかけて、ペルリス州及びケダ州ランカウイ島に出張しました。3回目になるペルリス出張ではペルリス・マレーシア大学（UNiMAP）を訪問し、また、ランカウイ島ではマレーシア科学大学（U

SM)の海洋研究所(CEMACS)が支援している汽水上の「オイスター・ファーム」を視察しました。ペルリス/UNIMAPへの訪問では、まず、王室博物館を訪問し、ペルリス州王室の歴史について詳しく知ることができました(ペルリス州の人たちの王室への敬慕の念は強いものがあります。ラジャゴ夫妻の旧式ID写真も掲示されていましたが、ラジャ妃はタイ系の血が入っているクランラン王の姫様だそうです。)。また、同大学大ホールで開催されていた「Robocup Malaysia Open 2025」の開会式に参加しました。同大学学長であるペルリス州皇太子殿下ご夫妻が開会を正式に宣言されたこのイベントでは、198のマレーシアのチームを含むアジアのチームが様々なテーマでロボット技術を競っていました(皇太子殿下は大変気さくな方でした)。日本からも、アドバイザーとして岡田浩之・ロボカップ日本委員会委員長が参加されていました。その後、同大学における半導体研究・研修施設を訪問し、夕食では同大学に訪問中の山梨大学の学生さん等と交流しました。ランカウィ島では、アイリン・タンCEMACS所長の案内によって、同研究所が支援をしている現地漁民が牡蠣の養殖をしている施設を訪問しました(この施設は、ランカウィ当局から同島の視察候補の一つとしてみなされているとのことです)。CEMACSは研究のみならず、マレーシア国民の民生向上も視野に入れている研究所であることを再認識しました。



(ペルリス州王室博物館での現ラジャゴ夫妻の旧式ID)



(ランカウィ「オイスター・ファーム」での生牡蠣)

22日にはケダ州クリム・ハイテクパークの日本企業にお邪魔しました。昨年12月にペナンに着任以来、日本企業、日系企業など約30社を訪問いたしました。実に多彩な企業活動が管内に存在し、また、それぞれの企業様が特有の問題を抱えておられることを改めて認識いたしました。今後とも、必要に

応じ、このような問題の存在を関係の州政府関係者との面談の中で言及し、善処を求めていると思います。

政治・行政・経済面では、

8月4日、シンガポール駐在の自治体国際化協会（クレア）の皆様とオンライン会議をいたしました。クレアの皆様が7月19日にペナン盆踊りに参加していたのを捉え、日本と在ペナン総領事館管内の自治体との間の姉妹都市関係及び友好関係の現状について情報共有すると共に、連邦・州の関係について検討しているペナン州議会の取り組みについて何か協力ができるかについて意見交換いたしました。5日、当地領事団のラフィク・パキスタン名誉総領事（マレーシア名誉領事団長）及びシェイク・バングラデシュ名誉領事（ペナン領事団事務局長）と館員とともに懇談しました。当地名士とも繋がりが強い領事団関係者とは今後も強固な繋がりを維持していきます。

12日、ペナン輸出入協会（Penang Importers & Exporters Association）の80周年式典に参加しました。この式典に主賓として参加したチョウ首席大臣が連邦議会において、連邦政府から州政府への交付金増加を要望した旨を強調していたことは印象的でした。13日、ペナン州議会議員の野党リーダー（PAS党）のムハマッド・ファウジ議員を表敬しました。マレーシア／ペナン政治を多角的に見ていきます。14日、ペナン技能開発センター（Penang Skills Development Centre: PSDC）を訪問して、同センター業務の説明を受けました。PSDCが運営するペナン半導体デザイン・アカデミーなどについては、今後ともその動向に注目していきたいと思います。19日、ペナン港湾委員会のヨウ委員長を訪問し、委員会の業務等について説明を受けました。ペナン港はペナンのみならず、北部の根幹であるところ、今後もその拡張計画等を注視していきます。

(ペナン輸出入協会式典で挨拶するチョウ首席大臣)



(PSDCにて)



20日、ペナンの観光・創造経済担当閣僚（EXCO）であるウォン・ホン・ワイ氏及びペナン観光局のウィ・チョック・ヤン局長と懇談し、盆踊り大会・よさこいパレードへの協力に謝意を表すると共に、今後のペナン観光振興等について聴取しました。21日、マレーシア半導体産業協会会長（MSIA）等と懇談しました。皆、長くマレーシア／ペナンの製造業に関わった人物であり、半導体産業のみならず、マレーシアの産業全般について貴重な見解を伺いました。22日、ペナンにおけるウクライナ独立記念日祝賀行事（名誉領事主催）に出席しました。25日、リム・パン・ボイトUT教授のご紹介で、ペナンにおいて新たな事業を展開することを検討している日本企業2社の関係者が来訪され、お話を伺いました。学術的にも意義のある事業であり、当館ともしても今後側面支援を惜しまないところです。29日、FMM（マレーシア製造連盟：Malaysian Federation of Manufacturing）ペナン支部の56周年記念行事に出席しました。この記念行事は、ペナン州からナタリブ州長、チョウ首席大臣、連邦からシム人的資源相（ペナン州選出連邦下院議員）が参加しており、州・連邦からFMMがいかに重視されているかが分かる行事でした。この会合においては、ペナン経済の今後等について種々の挨拶がありました。そのうち、（次期ペナン州首席大臣とも目される）シム人的資源相からは、過去、ペナンでは外国投資を広範に受け入れ「Made in Penang」の製品を製造することで成長してきたが、高齢化の問題を回避し今後50年間成長するためには「Made by Penang」の高付加価値製品やブランド力ある企業を育成すべきであるといった意味の発言をしていたことが注目されます。



(ウォンEXCOとの懇談にて)



そして31日早朝から、ペナン州における独立記念日公式行事に参列しました。初めてなので全てが珍しかったですが、最大の見せ場は連邦政府機関・州政府機関・大学を含むペナンの教育機関・バイク（日本製やハーレーダビッドソン等）・乗用車（国産車や日本車等）・クレーンを含む大型車両・戦車等によるパレードでした。終了は11時30分頃で、参加者も観覧者もお疲れ様でした。本来、今回のパレードの表彰は9月16日の「マレーシア・デー」でなされるのが通常ということですが、今回は時間を延長して当日に行われました。というのも（某名誉領事によると）9月16日のマレーシア・デーの舞台はペナンになるからだということです。

今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

日本人社会との関係では、8月26日、定例のペナン日本人会理事会に出席しました。日本人会の魅力向上等の議論に参加いたしました。今後とも、様々な形で日本人会の魅力向上と活動の活発化に側面協力して参ります。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも精一杯励んでまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

文化交流・報道・学術交流関係では、

8月1日、USM社会科学院のシバムルガン教授と懇談し、日本リベラル・スタディーズの承認プロセス等について意見交換しました。この新しい課程には、日本企業の皆様のご関心も高いところ、早期の実現に向けて側面支援をして参ります。5日、信州大の中村学長など信州大関係者等のご来訪をいただき、今後の信州大の当地での活動の目標等についてお話を伺いました。同日、公邸にて、ザイリル・ペナン州インフラ担当閣僚を筆頭に、信州大学、USM、豊橋技術科学大学、「ペナン・インスティテュート」、ペナン日本人会（信州大OBを含む）、JAGAM関係者等を招いての懇親夕食会を開催しました。6日、信州大とUSMとの学術協力覚え書（MOU）調印式に出席し、挨拶いたしました。信州大は、USMと同様、人文・社会科学系の学部から医学部まで有する総合大学であり、USMとの協力関係によって、日本・マレーシア双方にとって多くの成果が得られることが期待されます。この調印式におきましては、カーボン・ナノチューブ開発の先駆者である遠藤守信・信州大特別栄誉教授の記念講演もあり、大変意義深い会となりました。同日は、USM主催の夕食会、8日には信州大同窓生との夕食会もあり、更に親睦を深めることができました。USM副学長は過去52回訪日するなど大の親日・知日家であり、同大学は大阪大学との間で博士課程のデュアル・デグリー・プログラムを有しております。日本の大学がこれまで以上に強くなって、国際的な評価を上げているUSMと真に「両思い」になれることを期待します。



(USMにおける信州大学との協力MOU締結の様と懇親夕食会会場にて・・・)

12日、名古屋商業高校等の名古屋市の3つの高校生徒の訪問を受け、総領事館の業務、日本・マレーシア／ペナン関係について説明し、安全対策の講義を行ないました。(15・16日には、ペルリス州及びケダ州ランカウィ島に出張し、ペルリス・マレーシア大学(UNiMAP)を訪問し、また、ランカウィ島ではマレーシア科学大学(USM)の海洋研究所(CEMACS)の現地施設を視察しましたが、詳細は「出張」の項での記述の通りです。) 18日、INTIカレッジにおいて開催された豊橋技術科学大学(TUT)及び高専学生研修プログラムの開会式に出席し、挨拶いたしました。このプログラムはTUTが過去10年続けているものであり、学生の皆さんがこの2週間でたくましくなることを祈っております。19日、摂南大学の6名の学生さんにご訪問いただきました。人数も少なく、現在の北部マレーシアの状況などについて突っ込んだ説明ができたと思います。名古屋市高校生を含め、青少年交流に注力されているUSM副田先生に敬意を表します。



(名古屋市立高校生の皆様と)



(豊橋技術科学大学の皆さん等と「Tマーク」)

22日、JAGAM (マレーシア元日本留学生会) のゲイリー・タン会長及びシヨン・チャム JAGAM 北部支部長と懇談し、今後の日本・マレーシア／ペナン間の学術・文化交流について意見交換しました。23日、ペナン市内ホテルで実施された JAGAM 主催の日本留学フェアに参加し、挨拶しました。この日本留学フェアには、我が国国立・私立大学、専門学校、高校約30校が参加しました。この留学フェアでは、日本語を専門学校で勉強してから日本の大学に入学して学位を取得するというルートに加えて、日本の大学の英語コースに進むというルートも多く提示されたことが特色でした。また、マレーシアの教育と違うのは、まず、専門学校が多彩で面白いということ、更には、一つの専門分野に拘らない学際的な取り組みがあることでした。日本人の学生をもっと支援してほしい・日本人の学生にも頑張ってもらいたいという気持ちは持ちつつも、マレーシアの優秀な学生の学びに日本の教育機会を役立ち、もって日本・マレーシア／ペナン間の友好関係増進に役立てば幸いです。28日、USM 社会科学院において、「マレーシア日本ダイアログ」に終日参加し、挨拶をいたしました。このダイアログは、日本（創価大学、福井大学、神田外国語大学、イビデン等）、マレーシア（USM、マラヤ大学等）の学術経験者及びビジネス関係者が歴史、文化交流、ビジネス、学生交流等の側面からの両国関係について意見交換するものであり、現在マレーシア政府内で審査プロセス下にある「日本リベラル・スタディーズ」コースの先鞭となるものです。このような学際・業際的な交流の取り組みは始まったばかりです。今後、より高いレベルのものとなるよう協力します。29日、ペナン市内で開催された TUT 及び高専学生のペナン研修プログラムの修了式に参加しました。学生さんが

4チームに分かれた発表はそれぞれ面白く、また、自分としてもマレーシア／ペナンの新たな面を知る良い機会でした。この2週間の間に、自分たちでも、また、引率の先生方からも語学面等で大きな成長が感じられたということでした。INTIカレッジでもハッカソンや企業訪問も多くの成果があったということです。10年を超えるこの事業は日本とペナンとの間の学生交流の一つのお手本です。今後、この事業に参加した学生さん達が世界に伍して活躍していくことを心から期待します。

(↓日本留学フェアにて)



(↓「マレーシア日本ダイアログ」にて)



(↓TUT修了式にて・・・)



総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

9月以降も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安

心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。な

お、9月には、大阪・関西万博「ペナン・ウィーク」に出席するチョウ・コン・ヨウ首席領事に同行して日本に出張する見込みです。今後、ペナン州政府との間で更に関係を強化して、なんでも言える関係が構築できれば幸いです。